

博士論文・要約

メディアの表現理解における実践の分析
—規範の参照という視点から—

是永 論

目次

序論・問題提起

問題の所在.....	1
「理解の仕方」に即した分析視点.....	8
本論の構成.....	13

第1章 記述のもとでの理解

記述のもとでの理解とその方法.....	15
カテゴリー集合とその一貫した適用.....	18
発話を通じた行為連鎖の参照.....	26
トラブルの理解と修復.....	31
表現における理解の産出.....	37

第2章 事実としての理解

報道と事実の理解.....	41
記述実践としての「編集」.....	43
スタジオ・トークにおける行為連鎖の参照.....	51
「報道された事実」としての、公共的な理解の達成.....	54

第3章 経験としての理解

「本当の経験」としてのオーセンティシティ.....	58
受け手におけるオーセンティシティ.....	61
「自分のこと」として理解すること.....	64
トーク番組における経験の語り.....	67
経験の資格をめぐるカテゴリー化.....	72
経験の社会的な配置に向けて.....	77

第4章 スポーツを見る実践

メディアの中のスポーツ.....	81
実況の「危険性」.....	82
中継における発言の構造化.....	86
リージュ競技中継における実践.....	90
記述のもとで見ること.....	96
「動き」として見ることの規範.....	100
実況の「物語」と技.....	106

第5章 広告を理解すること	
広告の前景化.....	110
広告ではないものとして見るということ.....	114
「広告を見る」という実践.....	117
実践その1 カテゴリー集合による人物の特定.....	119
実践その2 カテゴリーと結びついた活動.....	123
実践その3 関係性の転換にしたがった活動の理解.....	128
理解の実践における象徴作用.....	130
第6章 マンガにおける理解のデザイン	
「読むこと」の多層性.....	135
マンガの「わかりやすさ」と「見ること」のデザイン.....	137
会話をめぐる理解可能性.....	143
コマ展開と行為連鎖.....	145
記号として「見ること」/デザインのもとで「見ること」.....	150
ニュースとして伝えるシーケンス.....	155
マンガを読むという経験の多層性.....	157
結論	
知見の要約.....	161
効果論的なメディア研究への反省とリマインド.....	163
表現について語る実践に向けて.....	165
引用文献.....	169
参考文献.....	173
資料.....	176

序論・問題提起

本論文は、メディアの表現を理解する際に、人々が用いている実践方法について、特に表現上の活動の記述から、記述のもとで参照される規範に着目しながら考察したものである。

本論文の問題意識は次の通りである。近年、マス・メディアにおける表現内容への批判が、インターネットの普及と合わせて、「メディア・リテラシー」という用語とともに盛んになってきたように感じられる。筆者は2005年から2009年の間、BPO（放送倫理・番組向上機構）の委員として、一般視聴者からのテレビ番組への幾多の批判に接し、そのような実感を強くした。

しかしながら、CMなどの表現内容への批判から、CM放映の制限や中止などを求める現実的な行動を展開しようとするとき、そこに論理的および実地的な観点から困難を生じる可能性がある。

その困難とはつまり、表現内容における、ある行為が問題にされた時、一般からの批判への過剰な反応として、その行為がCMという「つくりごと」の中での行為として扱われることによって、制作者が、本来表現行為を通じて関与する対象であるはずの社会や現実との結びつきを失ってしまう困難として表される。また、その一方で、表現の制作者やメディアに対して、現実的・客観的な表現を求める態度として、あらかじめ現実との結びつきが過度に強調されてしまうことにより、表現について許される創作的な範囲が極度に狭くなってしまっても考えられる。

これに対して、従来のメディア研究の視点は、権力や制度の側面から表現制作の行為を社会的な現実と結びつける一方で、表現の理解を受け手個人による態度に帰属してしまうことにより、社会における現実場面に即した表現理解の多様性をとらえ損なってきたといえる。

こうした問題意識から、本論では、以上で問題とした表現と現実のとり結ぶ関係について、表現の理解を次のような三つの特徴をもって考察した。

1. 表現として描かれたもの（記述）に即した理解を対象とすること
2. 1を、記述上の概念にしたがってなされる理解の仕方として分析すること
3. 2は現実場面で実践されている理解の仕方でもあること

第一は、ある表現に描かれた行為の理解を考察の対象とするとき、その行為についての理解が導かれる過程を、その行為の記述に即して考察することである。つまり、直接には表現に描かれていない文化的・社会的な背景や、表現の対象となっている人々の属性などを、表現の理解に先行した事実や知識としてひとまず扱わないこととし、記述から理解が導かれる実践そのものを考察の対象とする。

第二の点は、表現の理解を分析するときに、表現に描かれている人々やその発言が、特に行為に関連した意味を持つまとまりによって理解を導いている点に着目することである。以降では、このまとまりが記述による「概念」の結びつきによって構成されていることを示しながら、第一の点で示した理解の過程を、その概念の結びつきにおいてなされる「記述のもとでの理解」として取り扱う。

第三は、第二点にみた記述のもとでの理解が、メディア以外の現実場面でも実践されている、という前提から考察することである。このとき、本論は現実の社会生活における人々による理解の実践過程を研究してきたエスノメソドロジーの考察を参照する。本論で分析の対象となる「カテゴリー集合」や「行為連鎖」の参照によって導かれる概念の結びつきにおいてなされる理解とは、本来はエスノメソドロジー研究によって、現実において人々が理解を実践する過程から分析的に見出されたものである。

以上の観点から実際のメディア上の表現理解を考察するにあたり、本論では章ごとに考察の対象となるメディアを、それぞれ理解の実践に見られる独自の特徴によって選択するとともに、表現内容を考察するにあたっては、当該メディア上の表現の理解に関わる現実的な課題を示した。

第1章 記述のもとでの理解

本章では、本論の考察における、記述のもとでの理解という観点について、社会的な行為の記述についてさまざまな記述が可能であることを課題とした前田[2015]の論考を手がかりに明らかにした。そこでは、従来の社会学が独自の記述を行う一方で、複数の記述どうしの結びつきを、記述がなされる文脈とともに考慮して来なかった点が指摘された。そのような考察の問題は、メディア表現を対象とする場合においても、一方に他者に向けた社会的な活動の記述があり、他方にそれ以外の個人的な活動レベルでの記述があるという二元論にもとづく限界をもたらしたと考えられる。

これに対してエスノメソドロジーの研究では、人々が行為を実践する中で複数の記述の結びつきを参照することが考察の課題とされてきた。本章後半では、参照される規範として、これまで現実の相互行為の分析から明らかにされた、カテゴリー集合と行為連鎖について検討した。

第2章 事実としての理解

本章では、テレビでの報道番組における表現について、「事実」としての理解が産出される際の規範を、カテゴリー集合と、カテゴリーに結びついた活動として分析した。本章の分析により、報道番組において、マス・メディアとしての公共性をともなう理解が、場面ごとのそのつどの状況にしたがって、受け手に対してオープンな関係性をもって達成されていることが示された。

第3章 経験としての理解

本章では、経験を所有することが一つの規範として参照されることにより、表現の理解や表現内容への参与が、カテゴリー集合を参照した人物の関係についての理解とともに実践されることを、ドキュメンタリーの演出や、トーク番組での司会の技法について分析した。結果から、文化的な秩序をもった制度や慣習について、経験の社会的な配置とその技法から考察する可能性が示された。

第4章 スポーツを見る実践

本章では、スポーツ番組の実況・解説を対象に、スポーツを「見ること」が、実況・解説による記述の実践において、行為連鎖および、動きとして見ることの規範を通じて達成されていることを分析的に明らかにした。結果から、従来のメディア研究において、記述実践に対する外在的な立場から、「物語」といった表現内容に関わる分析を行うことの問題が示された。

第5章 広告を理解すること

本章では、広告表現において、広告としての独自の特徴を維持しながら理解を産出する方法について、視聴者の実践において参照されるカテゴリー集合や、抽象性や象徴性をもって見ることの規範から

分析的に明らかにした。分析から、広告における象徴としての理解が、カテゴリ集合などの規範を参照した制作者による実践にしたがって生じることが示された。同時に、広告表現が、作られた虚構として現実からかけ離れた形で理解されないことが、受け手自らによる規範の参照を通じた理解の実践により可能となっていることを明らかにした。

第6章 マンガにおける理解のデザイン

本章では、マンガにおける表現の理解を対象とし、そこで参照される規範が、表現において人々が参与する空間とともに「デザインされている」という観点から、マンガ表現された場面を日常的な光景として理解する実践をコマやセリフの配置について分析した。分析の結果から、読書経験と同様に、マンガ表現における理解が、読むことに関わる具体的な実践に即した、表現における規範の参照を通じて、多層な経験へと開かれることが明らかとなった。

結論

以上の考察を通じて、人物に関する記述や、発話をともなう活動の記述どうしに関係にしたがって表現の理解を達成する際に、表現における概念の結びつきとして参照されるものを、本論では「規範」として明らかにした。こうした規範は、これまでの社会学などで主に行為を統制（制約）するものとして考えられてきたものとは異なり、表現における理解を、「具体的な実践のかたち」に即したさまざまな局面の中で、場面ごとそのつどの状況における多様な経験について可能にするものであった。

このような意味での表現における「理解可能性」が、本論が研究上の問題とした、表現が現実と相互に関わることの可能性に展開する。本論では、受け手がカテゴリ集合の参照を通じて、表現上のできごとからオーセンティシティを導いたり、あるいは、表現に登場する人物がトラブルをその場面について調整したり、あるいは、それらの人物が資格を交渉する実践から、受け手が日常的な光景の理解を細部において産出することにより、表現された行為の理解に参与する実践を実例により確認してきた。こうした理解の実践を通じて、表現上のものでありながらも、人々が現実に関わる経験をそこに見い出したり、現実的な立場に対して何らかの影響や効果をもたらす可能性が結論として示された。

この結論を受けて、現代においてメディアを考える上で社会的な課題となっている、表現の制作者と受け手の関係について、いくつかの示唆を行った。それらは、メディア利用の細分化と多様化にともない、表現が自己目的化する中で自閉的になってしまうことへの対処をはじめとして、表現の制作がもつ社会的な位置づけや影響について、規範の参照という視点から一定の見通しを得ることや、制作者と受け手相互が共通のことばをもって、社会的な表現のあり方について対話をする可能性などとして示された。

【参考文献・抜粋】

- 鮎戸弘 1992 『コミュニケーションの社会心理学』、筑摩書房
- Backingham,D. 2003=2006 *Media Education:Literacy, Learning and Contemporary Culture, Blackwell* (鈴木
監訳 『メディア・リテラシー教育：学びと現代文化』、世界思想社)
- Baudrillard,J. 1970=1995 *La Société de Consommation, Editions Denoël* (今井・塚原訳 『消費社
会の神話と構造』、紀伊國屋書店)
- Coulter,J. 1983 “Contingent and a priori Structures in Sequential Analysis”, *Human Studies* 6(4),pp.361-376.
- 江原 由美子 1998 「「受け手」の解釈作業とマスメディアの影響力」、『新聞学評論』37号、51-
65頁
- Francis,D. & Hester,S 2004=2014 *An Invitation to Ethnomethodology, Sage* (中河ほか訳 『エスノメソド
ロジーへの招待』、ナカニシヤ出版)
- 藤竹暁 1979 「テレビの出現」、早川善次郎ほか著 『マス・コミュニケーション入門』、有斐閣新
書
- Goffman,E. 1963=1980 *Behavior in Public Places, Free Press=1980* 丸木恵祐、本名信行訳 『集りの
構造』、誠信書房)
- Goffman,E. 1971 *Relations in Public: Microstudies of the public order, Basic Books.*
- Goffman,E. 1979 *Gender Advertisements, Harper and Row.*
- Goffman,E. 1981 *Forms of Talk, University of Pennsylvania Press.*
- Goodwin.C. 1981 *Conversational Organization, Academic Press*
- Goodwin,C. 1996 “Transparent Vision” in E. Ochs, E. A. Schegloff and S. Thompson (eds.) *Interaction and
Grammar* , Cambridge University Press, pp. 370-404
- Hall,S. 1980 “Encoding/decoding”, in S.Hallet al. (eds) *Culture, Media, Language*, Routledge,p.128-138
- 橋元 良明 2011 『メディアと日本人：変わりゆく日常』、岩波新書
- Heritage,J. 1984 “A Change of state token and aspects of its sequential placement” in J. Atkinson and J. Heritage
(eds.) *Structures of Social Action: Studies in Conversational Analysis*, Cambridge UP, pp.299-345
- Hutchby,I. 2001 ““Witnessing”: the use of first-hand knowledge in legitimating lay opinions on talk radio”,
Discourse Studies 3(4), pp.481-97
- 石郷岡知子 1993 『高校教師 放課後ノート』、平凡社
- 伊藤剛 2005 『テヅカ イズ デッド：ひらかれたマンガ表現論へ』、NTT出版
- 伊藤守 2006 「ニュースのディスコース分析、マルチモダリティ分析」、伊藤編 『テレビニュース
の社会学：マルチモダリティ分析の実践』、世界思想社、15-36頁
- 伊藤守・岡井崇之編 2015 『ニュース空間の社会学』、世界思想社
- Jayyusi,L. 1991 “The Reflexive Nexus: Photo-practice and natural history”, *Continuum: The Australian Journal
of Media and Culture* 6(2), pp.25-52.
- Jefferson,G. 1988 "On the Sequential Organization of Trouble-Talk in Ordinary Conversation", *Social
Problems*, 35(4), pp.418-441

- 金子秀之 2000 『世界の公共広告』、研究社出版
- 国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会 1976 『女の分断を連帯に：一年めの記録』
(冊子)
- 小宮友根 2007a 「カテゴリーと結びついた活動」、前田ほか編『エスノメソドロジー：人びとの
実践から学ぶ』、新曜社、115-120 頁
- 小宮友根 2007c 「行為の連鎖」、前田ほか編『エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』、新
曜社、132-139 頁
- 小宮友根 2011 『実践の中のジェンダー：法システムの社会学的記述』、新曜社
- 今野勉 2004 『テレビの嘘を見破る』、新潮新書
- 是枝裕和 2007 「演出といわゆる「やらせ」をめぐる…：この捏造問題から何を学ぶか」、『新・
調査情報』65号、2-9 頁
- 是永論 2004 「映像広告に関する理解の実践過程：「象徴」をめぐる相互行為的な実践」、『マス・
コミュニケーション研究』64号、104-120 頁
- 是永論・酒井信一郎 2007 「情報ワイド番組における「ニュース・ストーリー」の構成と理解の
実践過程：BSE 問題における「リスク」を事例に」、『マス・コミュニケーション研究』71
号、107-128 頁
- 串田秀也 2001 「私は一私は連鎖：経験の「分かち合い」と共一成員性の可視化」、『社会学評論』
52(2)、124-147 頁
- 串田秀也 2010 「言葉を使うこと」、串田・好井編『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』、世
界思想社、18-35 頁
- 串田秀也・好井裕明編 2010 『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』、世界思想社
- Lang,G.&Lang,K 1953=1997 *Politics and Television:Re-viewed*,Sage(荒木ほか訳『政治とテレビ』松籟社
- Leudar,I. & Nekvapil,J. 2004 "Media Dialogical Networks and Political Argumentation", *Journal of Language
and Politics*,3(2),pp.247-266
- Macbeth,D. 1999 "Glances,Trances, and Their Relevance for a Visual Sociology",in P.Jalbert (ed.) *Media
Studies:Ethnomethodological Approaches*,University Press of America,pp.135-170.
- 前田泰樹 2007 「見る」、前田ほか編『エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』、新曜社、
210-216 頁
- 前田泰樹 2008 『心の文法』、新曜社
- 前田泰樹 2015 「「社会学的記述」再考」、一橋社会科学 7(0)、39-60 頁
- Maynard,D. 2003=2004 *Bad News, Good News: Conversational Order in Everyday Talk and Clinical Settings*,
University of Chicago Press (檜田美雄・岡田光弘訳『医療現場の会話分析——悪いニュース
をどう伝えるか』勁草書房)
- 道又爾ほか 2011 『認知心理学：知のアーキテクチャを探る (新版)』、有斐閣アルマ
- 水川喜文 2007 「定式化と実践的行為」、前田ほか編『エスノメソドロジー：人びとの実践から学
ぶ』、新曜社、29-34 頁

- 水谷憲司 2000 「心理戦と人間ドラマのはざまに:プロ野球中継の曲がり角」、青弓社編集部編『こんなスポーツ中継は、いない!』、青弓社、7-26 頁
- 森達也 2005 『ドキュメンタリーは嘘をつく』、草思社
- 森田浩之 2009 『メディアスポーツ解体:「見えない権力」をあぶり出す』、NHK 出版
- 中 正樹 2008 「内容分析のすすめ:実証することの大切さ」、小玉編『テレビニュースの解剖学:映像時代のメディア・リテラシー』、新曜社、26-37 頁
- 浪田陽子 2012 「メディア・リテラシー」、浪田・福間編『初めてのメディア研究:「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで』、世界思想社、3-34 頁
- 難波功士 2000 『広告への社会学』
- NHK放送文化研究所編 2003 『テレビ視聴の50年』、NHK 出版
- 西阪仰 1997 『相互行為分析という視点』、金子書房
- 西阪仰 2001 『心と行為』、岩波書店
- 岡田光弘 2002 「スポーツ実況中継の会話分析」、橋本純一編『現代メディアスポーツ論』世界思想社、pp163-195
- 岡田光弘 2007a 「ジョークを語る(物語をすること/理解の表示としての笑い)」、前田ほか編『エスノメソドロジー:人びとの実践から学ぶ』、新曜社、163-168 頁
- 岡田光弘 2007b 「ニュースを伝える/受けとる」、前田ほか編『エスノメソドロジー:人びとの実践から学ぶ』、新曜社、169-174 頁
- 大塚英志 1987 『まんがの構造:商品・テキスト・現象』、弓立社
- 大塚英志 1994 『戦後まんがの表現空間:記号的身体の呪縛』、法蔵館
- Richerdson,E. & Stokoe,E. 2014 "The order of ordering:Objects,requests and embodied conduct in a public bar", in Nevile,Maurice et al. (eds.) *Interacting with Objects: Language,materiality and social activity*, John Benjamins,pp. 31-56.
- Sacks et al. 1974=2010 "A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation", *Language*,50,pp.696-735.(西阪訳「会話のための順番交替の組織:もっとも単純な体系的記述」、『会話分析基本論集:順番交替と修復の組織』、世界思想社、7-153 頁
- Sacks,H. 1963=2013 "Sociological description", *Berkeley Journal of Sociology* 8:1-16. (南保輔・海老田大五朗訳「社会学的記述」、『コミュニケーション紀要』第24輯、77-92 頁)
- Sacks,H. 1972=1989 "An initial investigation of the usability of conversational data for doing sociology", in D.Sudnow (ed.) *Studies in Social Interaction*, The Free Press,pp.31-73. (北澤裕・西阪仰訳「会話データの利用法:会話分析事始め」、G.サーサス・H.ガーフィンケル・H.サックス・E.シェグロフ『日常性の解剖学:知と会話』マルジュ社,93-173 頁)
- Sacks,H. 1972b "On the analyzability of stories by children", in J. Gumperz & D. Hymes (eds.) *Directions in sociolinguistics: the ethnography of communication*,Rinehart & Winston, pp.325-345.
- Sacks,H. 1978 "Some technical considerations of a dirty Joke",in Shchenkein,J.(ed.) *Studies in Organization of Conversational Interaction*,Academic Press.

- Sacks,H. 1992 *Lectures on Conversation* vol.2, Blackwell.
- 酒井信一郎 2010 「メディア・テキストのネットワークにおける成員カテゴリー化の実践」、『マス・コミュニケーション研究』77号、243-259頁
- 阪本俊生 1991 「トークと社会関係」、安川一編『ゴフマン世界の再構成』世界思想社、101-128頁
- 佐藤健二 1993 「メディア・リテラシーと読者の身体」、『マス・コミュニケーション研究』42号、134-150頁
- 佐藤直樹・F.クレマー編 2008 『ヴィルヘルム・ハンマースホイ 静かなる詩情』、日本経済新聞社
- Schegloff,E & Sacks,H. 1972=1989 "Opening up closings",*Semiotica* 7,pp.289-327 (「会話はどのように終了されるのか」、北澤 裕ほか訳『日常性の解剖学—知と会話—』、マルジュ社、175-241頁)
- Schegloff,E.1987 "Recycled turn beginnings; A precise repair mechanism in conversation's turn-taking organization" in G.Button and J.Lee(eds.) *Talk and Social Organization, Multilingual Matters, Ltd, Editors*,pp.70-85
- Sharrock,W. & Button,G. 1991 "Social Actor: Social Action in Real Time", In G. Button (ed.) *Ethnomethodology and the Human Science*, Cambridge University Press, pp. 137-75.
- Sheflen,A. 1976=1989 *Human Territories*,Prentice-Hall(桃木ほか訳 『ヒューマン・テリトリーズ：インテリアー—エクステリアー—都市の人間心理』、産業図書)
- Sudnow,D. 1972 "Temporal parameters of interpersonal observation",in D.Sudnow (ed.) *Studies in Social Interaction*, Free Press,pp.259-279
- 竹内オサム 2005 『マンガ表現学入門』、筑摩書房
- Tolson.A. 2005 *Media Talk:Spoken Discourse on TV and Radio*,Edinburgh University Press.
- 辻大介 1997 「コミュニケーションを認知科学する」、橋元良明編『コミュニケーション学への招待』、大修館書店、40-55頁
- 辻大介 1998 「言語行為としての広告：その逆説的性格」、『マス・コミュニケーション研究』52号、104-117頁
- 内田樹 2005 『先生はえらい』、ちくまプリマー新書
- 内田樹 2010 『街場のメディア論』、光文社新書
- 烏賀陽弘道 2012 『報道の脳死』、新潮新書
- 浦野茂 2004 「実践の中の知覚：身体的行為と見ることの分析」、山崎敬一編『実践エスノメソドロジー入門』、有斐閣、158-168頁
- van'Dijk,T. 1998 "Opinions and Ideologies in the Press",in A.Bell & P.Garrett(eds.) *Approaches to Media Discourse*,Blackwell,pp.21-63.
- 山崎敬一 2004 「エスノメソドロジーの方法(1)」、山崎敬一編『実践エスノメソドロジー入門』、有斐閣、15-35頁